会　議　記　録

会議名称	令和６年度第１回通学路安全対策推進懇話会
日時	令和６年８月９日（金） 午前１０時００分～午前１１時３０分
場所	秦野市役所本庁舎３階講堂
出席者	別紙「出席者一覧」のとおり
次第	別紙「次第」のとおり

会議の内容は、次のとおりです。

事務局

＜開会＞

市立小中学校通学路の安全対策をより効果的なものにしていくため、令和６年度第１回秦野市通学路安全対策推進懇話会を開催させていただいた。

今年度で３年目の開催となりますが、５名中４名の方に新しい委員となっていただきました。新たな視点からのご意見もいただきながら、子供たちの安心安全な通学路について考えていきたい。

教育部長

＜教育部長挨拶＞

当懇話会は、令和３年６月千葉県八街市で発生した痛ましい事故を受け、本市の通学路安全対策をより強固なものにすべく、令和４年度に新たに立ち上げたもので、今年度で３年目を迎えた。委員の皆様にはご参加いただき感謝申し上げる。

通学路の安全については学校、各地区で毎年開催している地域の皆様と市長との懇談会、秦野市議会などで様々なご意見をいただいており、教育委員会としても重要な課題として捉えている。この懇話会は通学路の安全に関する取り組みについて、関係する各分野の皆様から客観的なご意見ご助言いただいて児童生徒の安全確保につなげていくことを目的としている。

通学路の整備要望への対応状況等について確認してもらうこととしているが委員の皆様には、様々な視点からご意見をいただきたい。

事務局	＜出席者紹介＞ 昨年度は鈴木様を座長として会議の進行お願いしていたが、今年度も引き続きお願いしたい。よろしいか。 ～異議なし～
鈴木座長	＜座長挨拶＞ 東海大学で交通事故について、特に生活道路における歩行者や自転車の交通事故について研究を行っている。こういったところは交通量が少ないので、多発地点があるわけではなく、いろんなところで起きていて、１つ１つ対策すればよいのではなく、エリアで対策が必要。 事故が起きづらい場所もあり、危なくないわけではないが、ヒヤリハットの多くある。 通学路の安全対策ということでご尽力いただいているが、危ないなどの情報をいち早くキャッチして対策していくことが重要。 皆さんのご意見をいただきながら進めていきたい。
事務局	＜議題１＞ ～資料１、１－１、１－２について説明～
鈴木座長	事務局の説明について、意見等あれば発言をお願いしたい。 議題１の協議は終了とする。
吉田委員（自治会）	説明を聞いて、この交通安全といったときに、大体道路をチェックして危険な箇所を推定して、そこに手を加える、というイメージを持った。事故は人が起こしていて、八街市の事故のように飲酒運転（運転をする人たち）に対して、どうしていくのかという課題がある。 そこの道路は誰がみても道路そのものが非常に危険な場所である。国道としてそれだけの交通量があるにもかかわらず、子供たちがその中を通学路として使っている。 そしてそこを通る子供たちの教育もこのプログラムの中のポイントだと思うが、その辺の対策はどうか。
事務局	人に対してという観点では、教育委員会としても特に子供たちに対しての交通安全教育は重視してやっていく必要がある。

	また、各学校ごとに取り組んでいる内容もあるので紹介をしつつ、新たな取り組みがあればそのことにも挑戦しながら子供たちの教育もしていきたい。 そして、ドライバーなど（加害者になり得る人）に対しての啓発は本懇話会だけでは厳しい。 警察や地域安全課とも連携をしながらできることをやっていく。
吉田委員（自治会）	子供たちっていうのは基本的にじっとしていない。 遊んでて走って飛び出すこともあるため、押さえつけてこの中じゃなきゃ駄目だよと教えるのか、秦野市の道路は安全だから大丈夫だよ、と教育するのか、そういった方向性を示してもらいたい。
事務局	ハードいわゆる整備的なところだけで子供たちを守り切ることはおそらく難しいと思う。 鈴木先生には、例えばガードレールで全て整備してしまうと、ガードレールがないところを歩くときに子供たち自身が危険を予見できなかったり避けれないということが起きる、とおっしゃっていただいている。ハード的な整備で子供たちを守り切ることは現実に困難ということも受け入れながら、できることをやっていく。 それと同時に子供たち自身も危険を避けるようなことを身につけてほしいし、それが交通安全教育一貫でもあると考える。 また、朝の場合、小学校は登校班があるので、学校として、1列になって歩くよう指導したりしていると思う。 帰りはバラバラに帰るときもそういった危険について子供たちも意識できれば良いと思う。
地域安全課	地域安全課で交通安全教室は、小学校、中学校ともに4月5月6月が多いですが学校の校庭や体育館等で既に実施している。 また、本町中学校では、子供たちが自分たちで危険な場所について考える取り組みもある。
事務局	率直なご意見をいただいた中で、ソフト面や他の面で対応できることがあれば対応していきたいと思っている。

そういうことを逆に言っていただきたい。

ご発言される前にあんまり縛っていただかず、率直なご意見いただきたい。

鈴木座長　路面標示は警察が規制をかけているものではなく、ルールを目に見えるようにするもの。それを子供に伝えるということと安全教育とセットにするとよい。

～そのほか意見なし～

事務局　＜議題２＞

～資料２、２－１、２－２について説明～

宇佐美委員　令和５年度通学路整備要望一覧表の中にスピードを出して通る車が多いや道が狭く傘をさして通ると車と接触する危険性がある、とあるが狭い道にグリーンベルトを引いて意味があるのか。

国交省のデータでは、40 キロ制限の一般道路で 60%以上はスピード超過していたが、ハンプを設けることによって 17%程度まで下がったというデータが出ている。

そういったところを参考にしたほうが良いのではと思う。

グリーンベルトは視認性があってよいが、はみ出して歩いているのをよく見る。ハンプは効果も確認できているが、なぜやっていないのか。

鈴木座長　実際緑色に塗ることで通学路や子供が通るという意味合いで伝わってる情報はある。

昨年グリーンベルトの調査をしたが、子供はグリーンベルトがあるところはその中に収まって歩こうとする。一方、ないところはバラバラと歩く。夕方はやっぱり遊びながら帰るため、守る率は低いが、朝は集団で登校していることもあり、その中を歩く。交差してグリーンベルトがないところに行くとバラバラになるというのが顕著に出ていた。

子供の中では緑の中を歩くという意識づけはできているというふうには思う。

確かに車のスピードが落ちるかどうかについてはちょっと別

	に話にはなると思う。 ハンプには効果があると多くの事例でも言われているが、騒音が問題になっている。ハンプの前の家の方にはやはり厳しい。導入した自治体で実際に苦情が多くてやめてるという事例もある。 海外から取り入れたものだが、海外は家と道路に幅があるため大きな騒音問題にはならないが日本の場合は、家の目の前に道路があるため、特に狭い道路は導入しづらい。 路面に絵を書いたり、ポールを立てて道幅を狭くするという方法でスピードを落とさせる自治体がだんだん増えてきている。グリーンベルトに駐車してしまうケースでもポールを立てるのはどうか。スピードを落とすことを目的とするのであれば、ポールを立てるのは効果的だと思う。 グリーンベルトは子供への意識づけや通学路である共通認識を持ってもらうことを目的としている。 2026年9月から狭い道路はゾーン30に設定しなくてもすべて30キロ規制になる。 スピードが速いという内容が多い印象。看板の設置を立てればいいのか疑問ではある。
宇佐美委員	国交省のデータでは、道路に大きく緑背景に白い文字で30キロゾーンという標示の例が多く出ているため、ドライバーの視認性の問題だが、効果があるのではと思う。 道路のスピード表示、スピード制限の文字が消えてるところがよくある。
鈴木座長	30キロ規制ということに気づいていないケースも結構ある。
建設管理課	秦野市でも実際過去にハンプを設置したが、ハンプの近くの住民から騒音振動の苦情があり、撤去した事例がある。
宇佐美委員	南が丘の団地にはハンプがたくさんある。あまりそういった意見は出ていないような気がするがどうなのか。
建設管理課	もともと住んでいる方からはご理解を得られるが、新しくやるとなると苦情が発生する。
鈴木座長	今回、一覧では看板の設置要望が多い印象だが、1箇所に設

	置するよりもまとめて設置したほうが費用が安い等あるのか。
事務局	学校から出た要望に対して対策結果等を学校に返している。そういった中で、代替案として看板の設置を提案し、対策しているため、翌年度以降看板設置の要望ならということで提出してきている部分もあるかと思う。
鈴木座長	結構見通しが悪いので看板をつけてほしい思いがちだが、見やすくても急に出てくるケースもある。来ないだろうという油断が発生しやすい。逆に見えづらいと速度を落とすというケースもある。場所によって本当に見えづらいからなのか、そうでないのかはしっかりと考えていく必要がある。 今回、看板設置が多いのは気になるところで、規模が大きい部分は最初から代替案として要望を提出してきていることは理解した。
事務局	要望自体は、一覧を確認いただきたいが、学校からこうしてほしいという要望が教育委員会のほうに上がってきて、その要望を取りまとめている。
鈴木座長	対策案として、看板設置等にこだわっているわけではないと思うが、学校から看板設置の要望が多いということか。
事務局	そういうことになる。
吉田委員（自治会）	自治会としては、常に地域から要望が出ていて道路に関することは絶え間ないし、解決ができない、最高の難題である。 道路の拡幅ができて、歩道ができて、ガードレールができて、こういったことができればその状況においては最適な解決になるが、現実的には難しい。 できないことをやろうとせずに、アクション出来る、現実的にできることをいち早く行うことが必要。
事務局	ご指摘のとおりだと思う。今年看板設置の要望が多いのは、 昨年度の結果を踏まえてということをご説明したが、実際には道路の拡幅要望に対して、すぐにはできないため関係課を含めて、代替案として今できることをやるという回答をしている。必ずしも昨年の要望に対して実施できず放置したからということではない。学校も地域の方からの要望を取りまとめてい

る部分もあり、根本的な解決ができなければ意味がないというご意見もあるが、やれることをやっていくため、学校や関係課等と連携して代替案を実施している。

宇佐美委員　左右確認のためのミラーが撤去されてしまったとあるが、どういうことか。

建設管理課　カーブミラーの支柱の根元が腐食していたため、道路管理者による建設管理課で一時的に撤去している。

その状況をみられて要望されたのではないかと思う。

今後再設置する予定。

鈴木座長　学校へは説明されているのか。

事務局　学校への説明はしていない。対策案等を検討したうえで、回答する予定。

建設管理課　実はカーブミラーが倒れる事案があり、一斉点検を行った中で、危ないものを撤去した。

自治会長様からそういったお話が上がってくるため、自治会長様へは説明しているが、学校へは説明をしていない。

橋爪委員　抜け道として細い道が使われるケースがあり、年々交通量が増えていると感じている。秦野市ではスマートICができたり、工場ができたことでトラック等が頻繁に通行している。

歩道はあるが、幅が狭く一人歩けば埋まってしまいそこをトラックが通るとぎりぎりで車等との距離感がかなり近い。

かつ登校班の人数が多く見切れておらず、バラバラになったりするため、怖い。抜け道の対策等はないのか。

鈴木座長　交通環境が変わり、抜け道となっているところはとても危ないと思う。一番いいのは交通規制をかけることだが、本来はそういった生活道路は大型車が通る道ではないと思うが、今後増えてくると思う。

事務局　ほかの地区にも多くあり、どういった対策を講じていくのかは課題でもある。過去にも交通量が多く、横断歩道がない交差点があり、建設部で工夫をして、グリーンベルトを道路を横断させる形で設置したところ、非常に効果があったと聞いている。

	完璧な対策は難しいが、新しい対策等、専門的な見地等を参考に可能な対策をできる限りとっていきたいと考えている。
鈴木座長	登校時間帯は朝の時間帯に限られているため、工場と協定を結ぶなどしてその時間帯のみ通らないようにするなども一つの案としてある。 また、グリーンベルトを横断させるということは効果があるということが出ている。看板等は小さいため、路面に書いてあるほうが効果が得られる。
事務局	昨年度の取り組みについて、自治会との合同点検を実施したが、市政懇談会の中で要望された箇所と学校から要望された箇所で一致する箇所があるが、可能であれば地域の方と一緒に確認したいがよいか。
吉田委員（自治会）	どんどんやってほしい。逆にお願いをしたい。 3年前に自治連合会の企画会の中で説明をしてもらったが、一覧の資料は見ていないため、共有してほしい。
平井委員	～その他意見等なし～
事務局	＜議題３＞ ～その他について説明～
事務局	また、道路交通法が改正されて自転車もヘルメットの着用が努力義務化された。 秦野市でも４月１日から補助金などの制度を開始しているため、地域安全課より説明をお願いしたい。
地域安全課	紹介のとおり、今年度より取り組みを開始した。 対象店舗にて身分証を持っていくとその場で2000円引きになる。広報や道の駅、公式LINE、tetoru（小中学校保護者向け）などで周知を図っている。 着用率について紹介する。 昨年（制度開始前）秦野駅北口駐輪場で調査した結果、約6% 今年度は4月は6.4%、7月は8.2%だった。補助金だけではなく市民の皆様の意識が高くなったと思う。 子どもたちと高齢者の購入が増えている。 子どもはつけているが、保護者がつけていないこともある。

	地域でもつけていただくよう周知等お願いしたい。
鈴木座長	子供は親を見て育つ。親がつけていないと大人になってつけなくなってしまったりする。身近な大人がかぶっているのが当たり前としてかぶり続けてくれるという期待はある。 信号無視をする子供はどのくらいいるのか調査をしたところ、青点滅や赤になってすぐ渡る大人が多い場所は子供もやってしまう。子供は交通状況を判断して渡るというよりかは大人がやっているから子供もやってしまう。身近な大人の影響が強い。
吉田委員	違う話だが、登校班はどうなのと思うことがある。仲良しの子たち同士が集まっているわけではないので、人間関係のトラブルやPTAがやっているため負担もあると思う。なくすべきということではないが、ない地域もあるため、考える場が必要だと感じている。高学年から低学年に教えるということは必要だと思う。
鈴木座長	登校班を作ることで人数が多くなるため、目につきやすくなる。視認性の部分が大きい。
吉田委員	子供たちの数が減ってきていて、遠くから集まっていたりし、安全ではない道を通るケースもあるため、かえって危険だったりする。
事務局	とてもセンシティブな問題であると認識している。 学校や保護者からのご意見もあり、まとめるのはかなり難しいと思う。
鈴木座長	通学路として決まっているからこそ対策しやすいこともある。そして通学路を安全にしたからそれでよいということではなくて交通安全教育も非常に大事であることに変わりはない。 ～その他意見等なし～
事務局	＜閉会＞